

教育職員免許状取得希望者対象(教育学部以外) 教職履修カルテの入力について

履修カルテは、教育職員免許状の取得に必要な科目の修得状況把握のほか、教職履修上の課題や課題達成状況等を記録することにより、計画的な履修と大学教員による系統的な指導につなげることを目的としています。

履修カルテには、入力必須項目と任意項目があります。以下を参考に、期間内に入力してください。

入力期間:〇月〇日(〇)～〇月〇日(〇)

【必須項目】 各学期終了後、UNIVERSAL PASSPORT で必ず入力してください。

①「資格・成績・出欠」>「履修カルテ」を選択。

②履修カルテ登録画面に遷移。「自己評価」タブを押下。

③「必要な資質能力についての自己評価」エリアの資格プルダウンから、免許を1つ選択。

④各指標の自己評価をプルダウンで選択。

自己評価
5「達成度 80%以上」、
4「達成度 60%以上 80%未満」、
3「達成度 40%以上 60%未満」、
2「達成度 20%以上 40%未満」、
1「達成度 20%未満」、
0「指標欄の内容に相当する科目を履修していない」

⑤希望する免許が複数ある場合、他の免許についても選択し、各指標の自己評価をプルダウンで選択。

履修カルテ登録

提出受付中

基本情報 自己評価

必要な資質能力についての自己評価

資格 高等学校教諭一種免許状（英語）

免許の種類を変更し、④の作業を再度行う。

必要な資質能力についての自己評価

資格 高等学校教諭一種免許状（英語）

評価分類	評価項目	
学校教育についての理解	教職の意義	責務を理解し、教育の理念、教
	教育の理念・教育史・思想の理解	育の理念、教
	学校教育の社会的・制度的・経営的理解	育の理念、教
子どもについての理解	心理・発達論的な子ども理解	子ども理解のために必要な心理・発達論的基礎知識を習得していますか。

（補足）

評価項目に関連する科目で修得済みの科目がある場合、項目名をクリックすると関連する科目の成績評価が表示されます。成績評価を確認しながら、自己評価を入力することができます。

⑥全評価項目の自己評価を選択後、最下段の「確定」を押下。

課題探求	表現技術	敬重や発問、明確な話し方など授業を行う上での基本的な表現の技術を身に付けていますか。			
	学級経営力	学級経営案を作成することができますか。			
	課題認識と探求心	自己の課題を認識し、その解決にむけて、学び続ける姿勢を持っていますか。			
	教育時事問題	いじめ、不登校、特別支援教育などの学校教育に関する新たな課題に関心を持ち、自分なりに意見を持つことができますか。			

▶ 教職を目指す上での課題・対策

○ 確定

-----これで必須項目の入力は完了です-----

【任意項目】 以下の項目は必須ではありませんが、学期毎に入力しておくと、自己の振り返りに役立ちます。

履修カルテ登録

提出受付中

基本情報 自己評価

▼ 目標設定

対象年度学期	学修や卒業後の目標
2020年度前期	
2020年度後期	
2021年度前期	
2021年度後期	
2022年度前期	
2022年度後期	
2023年度前期	

目標設定:
学期ごとに学修や卒業後の目標を入力できます。

▼ 資格関連科目 修得状況

資格

科目

対象データがありません。

資格関連科目修得状況:
資格のプルダウンから免許種を選択すると、関連する科目の成績が一覧で確認できます。
「可」の評価がついた科目について、担当教員からのコメントを確認できます。

▼ 学外活動に関する記録

活動期間	活動内容/総括
対象データがありません。	

学外活動に関する記録:
教職に関する学外の活動を記録しておくことができます。

履修カルテ登録

提出受付中

基本情報 自己評価

▶ 必要な資質能力についての自己評価

▼ 教職を目指す上での課題・対策

対象年度学期	教職を目指す上での課題・対策
2020年度前期	
2020年度後期	
2021年度前期	
2021年度後期	
2022年度前期	
2022年度後期	
2023年度前期	

教職を目指す上での課題・対策:
学期ごとに教職を目指す上での課題や対策を入力できます。

【履修カルテを有効に活用し、教員免許状取得に関する科目を計画的・能動的に履修していきましょう】

履修カルテ（質問項目）（人文学部・経済情報学部）令和7年度以降

本学の教職課程のディプロマ・ポリシー		教職実践演習	4年次（教職課程修了時）	4年次（教職実践演習前）	3年次	2年次	1年次
開講科目			教職実践演習、教育実習	道徳教育の指導法、特別活動・総合的な学習の時間の指導法、教育実習	特別支援教育基礎、教育課程論、中等教科教育法Ⅲ、Ⅳ、教育の方法と技術、教育相談	教育の社会制度論、生徒・進路指導論、中等教科教育法Ⅰ、Ⅱ	教育基礎論、教師論、教育心理学
1・教職としての専門的知識	教職に関する幅広い基礎知識と取得免許種に応じた教育の専門職としての深い知識を身につけ、児童生徒の実態や課題に合わせて授業や環境の構成、教材・教具を工夫し指導方法を探求することができる。	4・教員として求められる教科等の指導	学習指導要領を踏まえ、自分の専門教科等について獲得した知識を、教材研究に生かすことができる。	学習指導要領を踏まえ、自分の専門教科等について獲得した知識を、教材研究に生かすことができる。	自分の専門教科について獲得した知識と教材研究が結びつくことを理解している。	自分の専門教科について深い知識を身につけている。	自分の専門教科について基本的な知識を身につけている。
			主体的に教材研究を行い、それを活かした指導計画を作成することができる。	教材研究を行い、指導計画を作成することができる。	教材研究の方法や視点を獲得し、指導計画作成に生かすことができる。	指導計画作成の基本的知識を身につけている。	指導計画のもつ意義や構成について基礎的知識を身につけている。
			授業の計画、実施、評価のプロセスの基本を理解し、子どもの実態に基づいて授業計画や学習形態等を工夫することができる。	授業の計画、実施、評価のプロセスの中で、子どもの実態に基づいて授業を計画したり学習形態等を選択することができる。	授業の計画、実施、評価のプロセスの中で、子どもの実態に基づいて授業を計画したり学習形態等を選択する必要性を認識している。	授業の計画、実施、評価のプロセスの基本的知識を身につけている。	授業を構成する三要素や導入、展開、終末といった指導過程についての基礎的知識を身につけている。
			子どもの実態把握や教材研究について多面的・多角的な視野からアプローチし、教職の幅広い基礎的知識を生かして授業を構成しようとする姿勢を身につけている。	授業を構成するためには、子どもの実態把握や教材研究にあたって多面的・多角的な視野や教職の幅広い基礎知識が必要であることを実感している。	子どもの実態把握や教材研究にあたって必要な、多面的・多角的な視野や教職に関する幅広い知識を深めようとしている。	子どもの実態把握や教材研究にあたって、多面的・多角的な視野が必要であることを理解している。	教職に関する幅広い基礎的知識を身につけている。
2・子ども理解	適切な子ども理解に基づき、生徒指導・教育相談を含む個の発達に応じた支援や学級経営などを、子どもの育ちに関わる一員としての他教員・保護者・関係者と協働して実践できる。	3・教員として求められる幼児児童生徒理解や学級	板書、話し方、表情など授業を行う上での基本的な表現力を身につけている。	板書、話し方、表情など授業を行う上での基本的な表現力を身につけている。	板書、話し方、表情など授業を行う上での表現を自分なりに工夫することができる。	板書、話し方、表情など授業を行う上での基本的な表現方法について理解している。	相手に伝わる話し方や共感的な聴き方、表情等を意識することの大切さを理解している。
			指導計画に基づきながらも、子どもの反応や学習の定着状況に応じて臨機応変に授業を行うことの大切さを実感している。	指導計画に基づきながら、子どもの反応や学習の定着状況に応じて授業を行うことの必要性を実感している。	指導計画に基づきながら、子どもの反応や学習の定着状況を把握する必要性を認識している。	指導計画に基づきながら授業を行うことができる。	指導計画を作成し、指導計画に基づきながら授業を行う必要があることを認識している。
			子どもの発達・発達には個人差があることを理解し、個に応じて指導・支援する必要性を実感している。	子どもの発達・発達には個人差があることを理解し、個に応じて指導・支援する必要性を実感している。	子どもの発達・発達には個人差があることを理解し、個に応じて指導・支援する基本的な方法を理解している。	子どもの発達・発達には個人差があることを理解し、個に応じた指導をするために子ども一人一人を理解する必要性を認識している。	子どもの発達・発達には個人差があることを理解している。
			生徒指導やキャリア教育の意義を理解し、子どもの発達や心身の状況に応じて適切な手立てを他者と協働して考えることができる。	生徒指導やキャリア教育の意義を理解し、子どもの発達や心身の状況に応じて適切な手立てを他者と協働して考える必要性を認識している。	生徒指導やキャリア教育の意義を理解し、子どもの発達や心身の状況に応じた手立てを理解している。	生徒指導やキャリア教育の意義や方法について基礎的知識を身につけている。	生徒指導やキャリア教育の重要性を自分自身の経験から理解することができる。
			子ども一人一人の個性や可能性を見出し、公平かつ受容的な態度で接することができる。	子ども一人一人の個性や可能性を見出し、公平かつ受容的な態度で接することができる。	子ども一人一人の個性や可能性を見出す方法や場面を考え、公平かつ受容的な態度を示すことができる。	子ども一人一人の個性や可能性を見出し、公平かつ受容的な態度で接しようとする。	子ども一人一人の個性や可能性を見出し、公平かつ受容的な態度で接することの重要性を理解している。
		級営等に関する幼児児童生徒理解や学級	人権感覚を持ち、特別支援教育や外国人児童生徒等教育など特別な配慮を必要とする子どもへの指導・支援に関する基礎的知識を身につけ、子どもの多様な背景を理解・尊重することができる。	人権感覚を持ち、特別支援教育や外国人児童生徒等教育など特別な配慮を必要とする子どもへの指導・支援に関する基礎的知識を身につけ、子どもの多様な背景を尊重し理解しようとする。	特別支援教育や外国人児童生徒等教育など特別な配慮を必要とする子どもへの指導・支援に関する基礎的知識を身につけている。	特別な配慮を必要とする子どもへの指導・支援の必要性を認識している。	人権を尊重し、特別な配慮を必要とする子どもに目を向ける必要があることを認識している。
			子どもとの間に信頼関係を築くとともに、子ども相互の人間関係を把握して、居心地の良さと規律の両方を備えた学級経営を実践しようすることができる。	子どもとの間に信頼関係を築くとともに、子ども相互の人間関係を把握して、居心地の良さと規律の両方を備えた学級経営を実践しようすることができる。	子どもとの間に信頼関係を築き、子ども相互の人間関係を把握して、居心地の良さと規律の両方を備えた学級経営を行う必要性を認識している。	子ども相互の人間関係を把握することの重要性を理解し、居心地の良さと規律の両方を備えた学級経営に必要な手立てについて基本的知識を身につけている。	子どもとの間に信頼関係を築くことの重要性を理解している。
		級解や学	理想とする子どもの姿のイメージを持ち、その実現に向けて学習・生活環境の整備を工夫する重要性を実感している。	理想とする子どもの姿のイメージを持ち、その実現に向けて学習・生活環境を整備する必要性を認識している。	理想とする子どもの姿のイメージを子どもに向けて言語化できるような体験やメッセージを持っている。	理想とする子どもの姿のイメージをより具体化できるような体験や学習をしている。	理想とする子どもの姿をイメージすることができる。

3	学校教育と学校を取り巻く地域や現代社会の諸問題に関心を持ち、問題解決のために対応を議論し行動することができる。	2 ・ 教員として求められる社会性や対人関係	社会人として適切な挨拶、服装、言葉遣いに気を配り、他の教員や保護者と良好な関係を築くことができる。	社会人として適切な挨拶、服装、言葉遣いに気を配り、他の教員や保護者と関係を築くことができる。	社会人として適切な挨拶、服装、言葉遣いに気を配り、人と関係を築くことができる。	社会人として適切な挨拶、服装、言葉遣いを理解し、実践している。	普段から適切な挨拶、服装、言葉遣いに気を配ることができる。
			組織の一員としての自覚を持ち、主体性や協調性を持って学校運営を担う必要性を認識している。	組織の一員としての自覚を持ち、主体性や協調性を持って学校運営を担う必要性を認識している。	様々な集団や組織の中で、自分がその一員として主体性や協調性を持って活動する経験をしている。	学校運営に関わる基本的な制度や仕組みを理解し、組織として学校運営を行う必要性を認識している。	教員は学校組織の一員であり、様々な校務分掌を担うことによって成り立っていることを理解している。
			自分の考えを丁寧に伝えるときともに、状況や相手の思いに耳を傾け共通理解を図るとともに、協働的に物事を進めようとすることができる。	自分の考えを丁寧に伝えるときともに、状況や相手の思いに耳を傾け、共通理解を図ろうとすることができる。	共通理解を図るために、相手の状況や思いに耳を傾けながら、自分の考えを丁寧に伝えるようとしている。	共通理解を図るために、自分の考えを伝えるだけでなく、相手の状況や思いを丁寧に聞き取ることができる。	普段から自分の思いを相手に伝え、また相手の思いを聞き、共通理解を図ろうとしている。
			現代の子どもの育ちを理解するために、家庭や地域等子どもを取り巻く環境に関心を持つ必要があることを実感している。	現代の子どもの育ちを理解するために、家庭や地域等子どもを取り巻く環境に関心を持つ必要があることを実感している。	現代の子どもの育ちを理解するために、家庭や地域等子どもを取り巻く環境に関心を持つ必要があることを理解している。	子どもの姿を教えるという教師からの視点だけでなく、子どもの育ちという視点で広く捉える必要性を認識している。	近年の子どもや子どもを取り巻く現状を理解するために、情報収集している。
4	教育者、保育者等の専門的職業人としての使命感・責任感を持ち、理論と実践を結び付けながら自ら学び求める姿勢を持ち続けることができる。	1 ・ 教員としての愛着等に関する使命感や責任感	社会の状況や時代の変化に伴い生じる新たな教育課題を進んで捉えようする姿勢を身につけている。	社会の状況や時代の変化に伴い生じる新たな教育課題を進んで捉えようする姿勢を身につけている。	社会の状況や時代の変化に伴い生じる新たな教育課題と自分とを結び付けて考えることができる。	社会の状況や時代の変化に伴い生じる新たな教育課題について、基本的な知識を身につけている。	社会の状況や時代の変化に伴い生じる新たな教育課題に関心を持っている。
			学校や子どもを取り巻く課題に対して、他の教員や保護者、地域の人々と連携・協働しながら解決するために、積極的に関わる姿勢を身につけている。	学校や子どもを取り巻く課題に対して、他の教員や保護者、地域の人々と連携・協働しながら解決するために、積極的に関わろうとしている。	学校や子どもを取り巻く課題に対して、他の教員や保護者、地域の人々と連携・協働しながら解決する必要性を認識している。	学校と家庭や地域との連携・協働について、現状や制度について基本的な知識を身につけている。	子どもの育ちには学校、家庭、地域等の様々な人々が関わっていることを自分自身の経験から理解することができる。
			教育者であることの自覚を持ち、学校教育に関わる基本的な法規とそれらの趣旨を理解している。	教育者であることの自覚を持ち、学校教育に関わる基本的な法規とそれらの趣旨を理解している。	学校教育に関わる重要な法規に関する基礎的知識をもとに、法令遵守の姿勢を身につけている。	学校教育に関わる重要な法規について基礎的知識を身につけている。	学習者の視点だけでなく、教育者としての基本的視点を身につけている。
			すべての子どもが向上しようとしていることを実感し、常に子どもから学び、子どもの成長を共に喜ぶことができる。	すべての子どもが向上しようとしている姿や場面を見出し、子どもから学び、子どもの成長を共に喜ぶことができる。	すべての子どもが向上しようとしている事例をいくつか話すことができる。	肯定的な子ども観を持ち、子どもの成長を支える基本的な手立てを理解している。	肯定的な子ども観を持つことの重要性を認識している。
4	自己形成	1 ・ 教員としての愛着等に関する使命感や責任感	教員の使命や職責についての基本的な理解に基づき、自ら粘り強く自分の役割を果たそうとする姿勢を身につけている。	教員の使命や職責についての基本的な理解に基づき、自ら粘り強く自分の役割を果たそうとしている。	教員としての使命や職責を果たすために、自ら粘り強く取り組むことの重要性を認識している。	普段から自分の役割を果たそうと粘り強く実践している。	教員の使命や職責について基礎的な内容を理解している。
			子どもの未来を真剣に考え、子どもにとってモデルとなるような姿を追求し、自ら学び続ける姿勢を身につけている。	子どもの未来を真剣に考え、子どもにとってモデルとなるような姿を追求し、自ら学び続ける姿勢を身につけている。	子どもの未来を真剣に考え、子どもにとってモデルとなるような自分の姿をイメージすることができる。	教員として自分の姿勢や行動が子どもにとってモデルになることを自覚し、子どもの未来を考える必要性を認識している。	普段から自分の生活や学習の姿勢や行動について、良い方向へ向けようとしている。
			一人一人の子どもが本当に学び理解することができたかという視点で、自分の指導を省察する姿勢を身につけている。	一人一人の子どもが本当に学び理解することができたかという視点で、自分の指導を省察しようとしている。	子どもの学びや理解に焦点を当て、自分の指導案や言動を振り返ることができる。	子どもの学びや理解を捉えたり価値づけたりする方法について基礎的知識を身につけている。	子どもが学んでいるか、理解しているかを捉える視点を持つことの重要性を認識している。
			学校安全に関する基礎的知識を身につけ、子どもの危険を予見したり回避しようとしたりすることができる。	学校安全に関する基礎的知識を身につけ、子どもの危険を予見したり回避したりする方法を理解している。	学校安全に関する基礎的知識をもとに、子どもの安全や危険について関心を持って情報収集している。	学校安全に関する基礎的知識を身につけている。	教員は子どもの安全・安心を守る責務があることを認識している。

各授業担当者 様

教職課程課

令和○年度 履修カルテ 評価コメント入力について（依頼）

本学では、教育職員免許法施行規則の一部を改正する省令（平成20年文部科学省令34号）及び教職課程自己点検・評価の評価項目に基づき、教育職員免許状取得のために設定されている全科目（必修、選択必修、選択すべて）の成績評価が「可」の履修者について、評価コメント欄に改善すべき点を記入することとしています。

つきましては、下記及び別紙マニュアルを参照いただき、期間内にコメントを入力くださいますようお願いいたします。

入力期間：令和○年○月○日（○）～○月○日（○）

○履修カルテ対象科目

教育職員免許状取得のために設定されている全科目（必修、選択必修、選択すべて）

- ①教科及び教科の指導法に関する科目
- ②教育の基礎的理解に関する科目
- ③大学が独自に設定する科目

【参考】履修要覧2023では、以下の科目が対象となります。

教育学部：p54～79、外国語学部：p120～125、看護学部：p154～155、
経済情報学部：p172～175、短期大学部：p196

記入例
教職の意義について基礎的な理解を更に深めることが望まれる。
教育の理念や思想に関する基礎理論・知識の更なる習得が望まれる。
教育に関する社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識の更なる習得が望まれる。
学習指導要領の内容に関する基礎理論・知識の更なる習得が望まれる。
学習指導案の作成や教材研究、模擬授業等の実践的な指導力の向上が望まれる。
学校教育に関する新たな課題に関心を持ち、自分なりに意見を主張することが望ましい。
専門分野の基礎理論・知識の更なる習得が望まれる。
子ども理解のために必要な心理・発達論的知識の更なる習得が望まれる。
カウンセリングに関する基礎理論・知識の更なる習得が望まれる。
コンピュータ等を活用した情報収集や教材活用により教育効果を更に高めることが望まれる。
教科書にある題材や単元等に応じた教材・資料を開発・作成することを深めることが望まれる。
板書や発問、的確な話し方など授業を行う上での基本的な表現・技術の更なる習得が望まれる。
自己の課題を認識し、その解決にむけて探索・調査し、自己解決しようとする力を伸ばすことが望まれる。
これまで以上に学生同士で共同して授業を企画・運営・展開することが望ましい。

履修カルテ 入力マニュアル

1. UNIPAメニュー「履修カルテ科目評価コメント登録」を選択してください。

The screenshot shows the UNIPA menu with the '成績' (Grade) dropdown menu open. The option '履修カルテ科目評価コメント登録' is highlighted with a red circle. The menu also includes options like '成績入力' (Grade input) and '成績照会' (Grade inquiry).

2. 科目一覧が表示されます。授業科目を選択してください。

The screenshot shows the '授業一覧' (Class list) page. A table lists courses with columns for '曜日時間' (Day/Time), '授業科目' (Course), '開講区分' (Lecture Division), '対象者数' (Number of Participants), and '開講学期' (Lecture Semester). The course '5143502 哲学概論 I' is highlighted with a red circle.

3. 評価コメント入力画面が表示されます。コメントを入力してください。

履修カルテコメント入力対象となる『成績が「可」の学生』にのみ、以下のメッセージがデフォルトで入力されています。このコメントを上書きする形で入力してください。

【コメント入力待ち】履修カルテ対象科目で成績が「可」のため、担当教員によるコメントが付されます。

4. コメント入力後、「○確定」を押下する。

The screenshot shows the '科目評価コメント登録' (Subject evaluation comment registration) page. The '評価コメント' (Evaluation Comment) field contains the text '【コメント入力待ち】履修カルテ' (Waiting for comment input: Course Card). The '○確定' (Confirm) button is highlighted with a red circle.

対象学生の背景色が黄色に変化していれば、入力完了です。

The screenshot shows the '科目評価コメント登録' (Subject evaluation comment registration) page. The student's background color is now yellow, indicating that the input is complete. The '評価コメント' (Evaluation Comment) field contains the text 'これまで以上に学生同士で共同して授' (More than ever, jointly with students).